

令和2年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

⑩課題:能登大納言小豆生産における省力化・効率化技術の確立(2~4年度)

代表者:石川県農林総合研究センター農業試験場 グループリーダー 松下太洋

目的

過湿土壌や日照不足の能登大納言小豆栽培への影響等について検討を行うとともに、大規模経営を実施する担い手の生産性向上のため、省力化技術の開発や大型機械実用性の検証等を実施する。

成果

①能登大納言小豆の落莢、肥大不足の要因解明

- ・開地下水位を10cm以下に管理すれば、湿害による減収および大粒率の低下を回避できると考えられた。
- ・場内圃場ではモリブデン粉衣で子実重等が増加した。

②異常気象に対応した能登大納言小豆の収量安定化と大粒割合増加のための技術開発

- ・カットドレーン施工有無による生育、収量及び大粒率の差は判然としなかった。

③大規模な担い手や新規栽培者の生産性を高める省力化・効率化技術の開発

- ・狭畦密植栽培を行ったが、密植区では徒長し登熟期に全株倒伏した。但し収量については、慣行区と密植区で差が判然としなかった。

狭畦密植用のスリップローラーシーダー



播種作業の様子

